

## マレーシア

景気は持ち直しも、政局不安定化がリスク

SMBC Asia Monthly

日本総合研究所 調査部

副主任研究員 松本 充弘

E-mail: matsumoto.mitsuhiro@jri.co.jp

## ■活動規制は最も緩い第4期に移行

マレーシアでは、夏場に新型コロナウイルスの新規感染者数が急増したことで、ロックダウンを含む厳しい活動規制が実施され、7～9月期の景気は悪化した。もっとも、新規感染者数は8月をピークに減少したことから、活動規制の緩和が徐々に進んでいる。12月15日の時点では、16の州・連邦直轄領のうち2州を除くほとんどの地域で、コロナ禍からの出口戦略「国家回復計画」で最も規制が緩い第4期へ移行済みである。

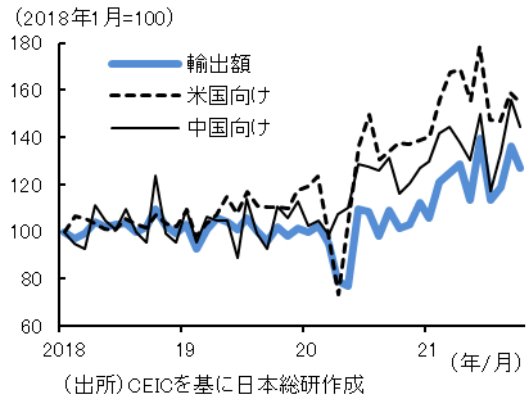
夏場に活動規制の影響で低調だった輸出は、10月に前年同期比+25%と増加した。背景には、経済活動の再開と資源価格の上昇があり、なかでも中国向け輸出の勢いが強い(右上図)。11月の製造業PMIも52.3と、前月に続き好不調の分岐点となる50を2ヵ月連続で上回っており、製造業の活動は回復傾向にある(右下図)。

新型コロナウイルス変異株の脅威は残るものの、現時点で新規感染者数はさほど増加していない。ワクチン接種完了率は78.7%(12月13日時点)と高いこともあり、厳しい活動規制を再導入するような動きも見られない。10月の流通業売上高(卸売と小売の合計)は、前年同月比+5.4%と5ヵ月ぶりのプラス成長となる等、消費にもようやく回復の動きがみられ始めている。輸出の回復とともに内需が持ち直すことで、当面は景気の浮揚が見込まれる。

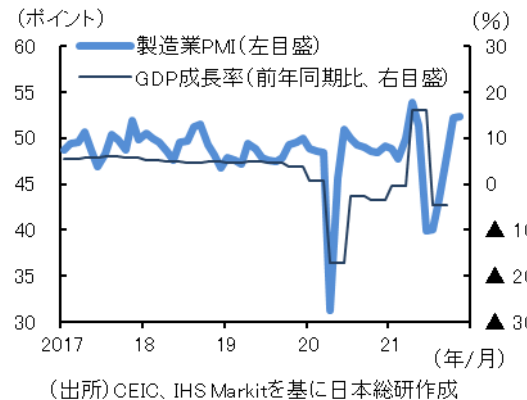
## ■政局不安定化による景気下振れリスクも

マレーシアでは8月、統一マレー国民組織(UMNO)が3年ぶりに首相ポストを獲得し、イスマイルサブリ政権が誕生した。しかし、UMNOとムヒディン前首相率いるマレーシア統一プリブミ党(PPBM)が軸となる多党連立政権の枠組みは変わらず、政権基盤は脆弱である。こうしたなか、ナジブ元首相の存在感が政権交代後に高まっている。UMNO内の実力者であるナジブ元首相は、政府系ファンド「1MDB」を巡る汚職事件で逮捕・起訴されたことにより影響力が低下していたが、UMNOで序列3位のイスマイルサブリ首相にとって政権の安定運営には、同氏の後ろ盾が必要な状況にある。さらに、ナジブ氏は新政権で初の選挙となる11月のマラッカ州議会選挙において、選挙戦の前面に立ちUMNOの圧勝に貢献した。もっとも、ナジブ氏と敵対する連立与党のムヒディン前首相や野党のマハティール元首相等、与野党含めナジブ氏の復権に反対する声は大きい。挙国一致のコロナ対策を名目に政争は一時休止しているが、再び政局の混乱が生じることで景気が下押しされる可能性に注意を要する。

&lt;輸出額(季調済)&gt;



&lt;製造業PMIとGDP成長率&gt;



当レポートに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます。当レポートは単に情報提供を目的に作成されており、その正確性を当行及び情報提供元が保証するものではなく、また掲載された内容は経済情勢等の変化により変更される事があります。掲載情報は利用者の責任と判断でご利用頂き、また個別の案件につきましては法律・会計・税務等の各方面の専門家にご相談下さるようお願い致します。万一、利用者が当情報の利用に関して損害を被った場合、当行及び情報提供元はその原因の如何を問わず賠償の責を負いません。